

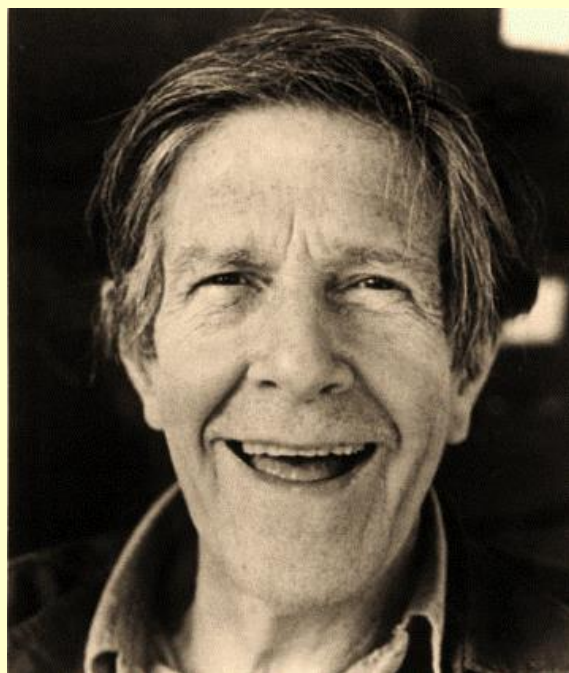
これを逃せば、もう一生聴けないかも!?

北村朋幹 [ピアノ] × ジョン・ケージ

プリペアド・ピアノのためのソナタとインターリュード [約75分]

◎ジョン・ケージってだ〜れ？

音楽のみならず、舞踏、詩、絵画、彫刻、写真など広い分野に計り知れない影響を与えた現代アメリカを代表する作曲家。熱心なキノコの研究でも知られる。プリペアド・ピアノの発明や「沈黙」するだけの作品、構成を偶然にゆだねる音楽、東洋の哲学への傾倒など、音楽の新しい可能性を切り拓き続けた。1912年に生まれ1992年に没したが、晩年はその広範な創造力、果てしなく自由な精神が評価され、世界中からあらゆる名誉ある芸術賞を授与された。1989年、稲盛財団による「京都賞」を受賞した際には、受賞式で正装を求められると「絶対にジーンズで出る!」と言い張りスタッフともめたが、日本の伝統の「羽織袴でどうか?」とのアイデアに喜び羽織袴で出席するなど、権威や形式にとらわれない自由な生き方を貫いた。1946-48年に作曲された《ソナタとインターリュード》は、ケージの音楽の中で最も力動感に溢れ、ユニークかつ繊細な音響空間を実現した傑作だ!



ジョン・ケージ [1912—1992]

◎プリペアド・ピアノってな〜に？



所沢ミュージズにおける北村朋幹の《ソナタとインターリュード》のレコーディング風景

直訳すれば「プリペアド＝準備された」。では、何を準備するかと言えば、ピアノの弦の間にゴム片やネジ、ボルトを差し挟むのである。ケージの《ソナタとインターリュード》では、ピアノ88鍵（音）のうち45鍵（音）にそういった細工が施される。

実際どんな音がするかは、紙面では表現しづらいのでYouTubeなどでご確認いただきたいが、ピアノの「ポン」という音が「ポコッ」「キーン」「カーン」「シャカ」という音になる。つまり、均一な美しい音色のピアノが、多彩な打楽器の集合体に変身するという訳。これはまったくもって不思議で愉快的な音体験だ。

裏面へ

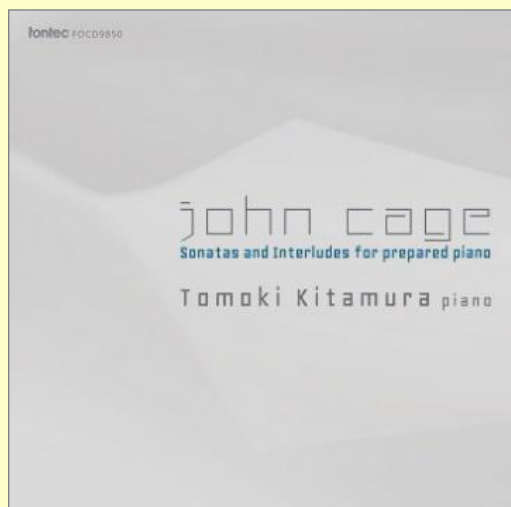
◎意外と癒し系？いや究極の癒し系音楽！

《ソナタとインターリュード》。その響きは木琴や鉄琴、時にバリ島のガムランや日本の木魚を思わせる多彩で神秘的な響きが特徴。ケージは東洋の思想に影響を受け、この作品を書いたと言われる。また現代の美しく完璧な（工業生産の）楽器に対する「異議申し立て」とも言われる。ケージは弦に挟む素材について「私は海辺を歩きながら、気に入った貝殻を探すように、プリパレーションの素材を決めた」と語っているが、この作品が不思議な色彩や常識を逸脱するような神秘性、人知を超えた癒しを感じさせるのは、ケージの柔軟で深い思想によるものと言える。「現代音楽だから」と敬遠していたらもったいない。ぜひ癒しに満ちた 75 分を体験して欲しい！



プリペアド・ピアノはバリ島のガムランのような東洋的な響き、繊細さと神秘性を感じさせる

◎若き天才ピアニスト北村朋幹 —— 46 年振りの新譜が誕生！



国内盤では 46 年振りの新譜
北村朋幹 [ピアノ]
《ソナタとインターリュード》

2005 年に東京音楽コンクールで優勝し、審査員大賞を受賞した時から、北村朋幹の才能は際立っていた。「類稀なる時間の感覚」(P.ギリロフ)、「詩的感性、哲学的叡智」(濱田滋郎)との評価の通り、作品を深く掘り下げ背景に潜む哲学や歴史に肉薄しようとする姿勢は、明らかに多くのピアニストとは一線を画していた。4 台の鍵盤楽器を駆使しケージなどを演奏した 2020 年 9 月のリサイタルは、「ピアノ演奏史において重要な一夜」(伊藤制子)と評された。今年 2 月には所沢ミューズで国内盤では高橋悠治以来 46 年ぶりとなるケージ《ソナタとインターリュード》のレコーディングを行うなど快進撃が続く。若き天才、北村朋幹が切り拓くピアノ史の新たな 1 ページに、ぜひご期待ください！

北村朋幹 [ピアノ] × ジョン・ケージ

《プリペアド・ピアノのためのソナタとインターリュード》

演奏時間
約 75 分

2021 年 9 月 19 日 [日] 15:00 開演 @所沢ミューズ マーキーホール

全席指定 ¥2,300 メンバーズ特割 ¥1,800

ミューズチケットカウンター 04-2998-7777 インターネット予約

所沢ミューズ

検索

